



〈連載54〉

## 東京湾のシンフォニー



大阪府立大学船舶工学科助教授

池田良穂

日本のクルーズ元年と呼ばれたのが平成元年。それから三年がたち、いよいよ日本のクルーズ産業の正念場を迎えたといつてよい。欧米のクルーズの歴史の場合と同様に、いささか時代錯誤的な「高級豪華客船」から、皆の楽しめる「大衆クルーズ」への脱皮の兆候も確実に見え始めていることは前回にも述べた。

こうしたマスコミ主導型のクルーズブームの中で、大きく花開いたのが東京湾でのデイクルーズ、グルメクルーズで、その中で主導的な役割を演じたのがシーライン東京の運航する総トン数1,100トンのシンフォニーである。トレンドイ雑誌にはシンフォニー・ブームと書かれたこともある東京湾デイクルーズに、いよいよこの8月には第2船が登場する。その名はシンフォニー2。総トン数は2,550トンと2倍以上となっているが、旅客定員はシンフォニーの450名から550名とそれほどは増えていない。すなわち、シンフォニーの実績をふまえて余裕のあるレストラン船として設計されたのがこの船なのである。シンフォニーでは当初予想されていた東京湾の観光を目的とする人よりも、船上での優雅な食事に期待する人が多かったという。これはマスコミの煽るク

ルーズブームによって、クルーズの一つのエッセンスとも言える高級な食事を期待して、乗船する人が多いことを表しているようにも思える。すなわち時間的にも金銭的にも本格的なクルーズには手が届かない人々が、クルーズのエッセンスをこのシンフォニーに求めているように思う。乗船している時間はディナークルーズで2時間半ほど。船の上で使ってくれるお金は2万円近いという。本格的なクルーズであるカリブ海のクルーズが一日あたり（食事が4食、他に軽食、ニンターテイメントなどを含む）の料金が2万円前後だから、これに較べると船会社側からするとずいぶん効率のよい商売といえる。

先日届いたシンフォニー2のパフレットには、ジープ、スニーカーをはじめとする軽装での乗船は遠慮して欲しいとある。まさに高級ホテルの中的高级レストランの雰囲気をも船全体に広げたのがこの船なのであろう。その点では観光客と食事客の両方にターゲットをあてている第1船に較べるとコンセプトがはっきりとしている。クルーズは一日3回を予定し、11時40分発のサンシャイン、14時30分発のティータイム、18時50分発のイブニングクルーズの3回で、航海時間はそ

それぞれ2時間20分、1時間半、2時間20分。4つのレストラン、宴会場を設けているため、シンフォニーでは比較的難しかった個人客と団体客を同時に受入れるとさまざまなトラブルが生じることを考慮した船内配置なのであろう。

個人で乗船した場合には2階のレストラン「フォーシーズン」または3階のシーサイドラウンジ「ポロネーズ」を利用することとなる。イブニングクルーズではレストランでのセットコースが21,000円、19,000円、17,000円の3種類、さらに豪華なグルメコースも用意されている。ピアノの生演奏をバックにしてフランス料理のフルコースを大きな窓の外に広がる東京湾の夜景を見ながら楽しめるという趣向である。ラウンジを利用すると、オードブルと飲み物のセットで10,000円。こちらでもピアノの生演奏と小アンサンブルによるムードミュージックが楽しめる。食事の後のエンターテイメントとしてカジノも用意されている。ただし、日本の法律で本当のカジノは許可されないもので、あくまでお遊びではあるが、このように食事だけでなくエンターテイメントも充実したレストラン船としてシンフォニー2がいよいよ8月1日に東京湾に登場する。日本のクルーズ産業全体の未来を占ううえでも注目すべき客船である。

## SYMPHONY 2

